



よこはま地震防災市民憲章

～私たちの命は私たちが守る～

ここ横浜は、かつて関東大震災に見舞われ、多くの方が犠牲になりました。大地震は必ずやってきます。その時、行政からの支援はすぐには届きません。私たち横浜市民はそれぞれが持つ市民力を発揮し、一人ひとりの備えと地域の絆で大地震を乗り越えるため、ここに憲章を定めます。

穏やかな日常。それを一瞬にして破壊する大地震。大地震はいつも突然やって来る。今日かもしれないし、明日かもしれない。

だから、**私は自分に問いかける。地震への備えは十分だろうか。**

大地震で生死を分けるのは、運・不運だけではない。また、自分で自分を守れない人がいることも忘れてはならない。私は、私自身と周りの大切な人たちの命を守りたい。

だから、**私は考える。今、地震が起きたら、どう行動しようかと。**

不安の中の避難生活。けれどみんなが少しずつ我慢し、みんなが力を合わせれば必ず乗り越えられる。

だから、**私は自分に言い聞かせる。周りのためにできることが私にも必ずあると。**

東日本大震災から、私たちは多くのことを学んだ。頼みの行政も被災する。大地震から命を守り、困難を乗り越えるのは私たち自身。多くの犠牲者のためにも、このことを風化させてはならない。

だから、**私は次世代に伝える。自助・共助の大切さを。**

平成 25 年 3 月 11 日制定

よこはま地震防災市民憲章(行動指針)

備 え

- ① 自宅の耐震化と、家具の転倒防止をしておきます。
- ② 地域を知り、地域の中の隠れた危険を把握しておきます。
- ③ 少なくとも3日分の飲料水、食料、トイレバックを備蓄し、消火器を設置しておきます。
- ④ 家族や大切な人との連絡方法をあらかじめ決めておきます。
- ⑤ いっつき避難場所、地域防災拠点や広域避難場所、津波からの避難場所を確認しておきます。
- ⑥ 家族ぐるみ、会社ぐるみ、地域ぐるみで防災訓練に参加します。

発災直後

- ① 強い揺れを感じたら、命を守るためにその場に合った身の安全を図ります。
- ② 怖いのは火事、揺れが収まったら速やかに火の始末を行います。
- ③ 近所のお年寄りや障害者の安否を確認し、余震に気をつけながら安全な場所へ移動します。
- ④ 避難する時は、ガスの元栓と電気のパレーカーを落とし、備蓄食料と常用薬を持って行きます。
- ⑤ 断片的な情報しかない中でも、噂やデマに惑わされないよう常に冷静を保ちます。
- ⑥ 強い揺れや長い揺れを感じたら、最悪の津波を想定し、ためらわず大声で周囲に知らせながら高いところへ避難します。

避難生活

- ① 地域防災拠点ではみんなが被災者。自分にできることを見つけて拠点運営に協力します。
- ② 合言葉は「お互いさま」。拠点に集まる一人ひとりの人権に配慮した拠点運営を行います。
- ③ 避難者の半数は女性。積極的に拠点運営に参画し、女性の視点を生かします。
- ④ 子どもたちの力も借りて、一緒に拠点運営を行います。
- ⑤ 消防団員も拠点運営委員も同じ被災者。まずは感謝の言葉を伝えます。
- ⑥ 「助けて」と言える勇気と、「助けて」に耳を傾けるやさしさを持ちます。

自助・共助の推進

- ① あいさつを手始めに、いざという時に隣近所で助け合える関係をつくります。
- ② 地域で、隣近所で、家庭で防災・減災を学び合います。
- ③ 子どもたちに、大地震から身を守るための知恵と技術、そして助け合うことの大切さを教えます。
- ④ 横浜はオープンな街、訪れている人みんなに分け隔てなく手を差し伸べます。
- ⑤ 私たち横浜市民は、遠方の災害で被災した皆さんにもできる限りの支援をします。